

# 萩市医師会報

No.600 2023.3

4 月 例 会  
4月23日(金) 午後7時  
於 医療支援センター

「太白と歳星」 山口市  
撮影 RHL

## 【行政説明】

演題「新型コロナワクチン接種の予約窓口一元化について」

説明者 萩市保健部健康増進課

ワクチン接種対策室 上田 貴之 次長  
新型コロナワクチン接種について、3月からの萩市ワクチン接種対策室への予約窓口の一元化に係る説明と国からの4月以降のワクチン接種の取扱い方針に関する情報提供がされた。

### 1. 接種状況

オミクロン株対応ワクチンの接種率が2月19日現在での人口比率で萩市が56.93%、阿武町が69.16%、山口県が49.40%と全国43.39%に比べ高率であること

### 2. 予約窓口の一元化について

3月1日から予約窓口を萩市ワクチン接種対策室へ一元化することとし、既に予約がある医療機関では予約通りに実施、入院患者やかかりつけ患者等が希望する医療機関があれば当該医療機関で実施とすること

現行の追加接種の期間は3月末日までで、4月1日以降は接種ができないことになる。しかしながら、令和5年度も接種を継続するために予防接種法が昨年12月に改正されたこと

### 3. 令和5年度（4月以降）の新型コロナワクチン接種について

3月上旬には国から実施内容及び留意事項が示される予定で、現時点での方向性は次のとおり

#### (1) 接種の法的位置づけについて

令和5年度は、現行の特例臨時接種（無料接種）の実施期間を1年間延長して継続されること

#### (2) 令和5年度の追加接種のスケジュールについて

高齢者を含む重症化リスクが高い者等に対しては春から夏（5月から8月）にかけて1回実施

重症化リスクが高い者等を含む接種

可能な年齢の者に対しては秋から冬（9月から12月）にかけて1回実施

#### (3) 春夏（5月から8月）の追加接種について

①重症化リスク（65歳以上、基礎疾患を有する者、医師が認める者）及び、重症化リスクのある者へのサービスを提供する者（医療機関、高齢者施設、障がい者施設等の従事者）が対象となること

②使用するワクチンはオミクロン株対応の2価ワクチンを基本とし、mRNAワクチンが接種できない方には組替えタンパクワクチンも使用可能とすること

#### (4) 秋冬（9月から12月）の追加接種について

接種可能な全年齢の者が対象となること

#### (5) 乳幼児（6か月から4歳）、小児（5歳から11歳）への接種について

令和5年度も期間延長し現行のオミクロン株対応2価ワクチンを継続使用すること

#### (6) 12歳以上の現行の令和4年秋開始接種の接種取扱いについて

令和5年度の継続は未定（現時点では5月初旬で終了となる予定）

### 4. 今後の予定について

3月上旬までに方向性（1）～（6）が国の審議会での法令改正の審議を経て示される予定

## 一 医 師 会

### 1 県医情報

前川県医常任理事

最新の情報として、①県医師会の来年度新規事業、②来年度県予算（医療関連）、③地域医療構想調整会議の実施状況についての3点が以下のとおり、報告された。

まず、県医師会の新規事業として、教育現場と意思疎通を図るため、まずは県教育

委員会との懇談会の場を持つこと。次に医師確保の一環として、県医師会として、医業承継に架かるマッチングのスキームを企画立案していたところであり、来年度の県予算に事業費が盛り込まれたので、実施が可能となったこと、郡市医師会への協力要請は先になるが、県医師会内で医師の緊急参集システムを確立し郡市医師会まで広げていけるよう構想を練ること

次に県の来年度予算について、子育てに関して、各市町に母子保健と児童福祉の一体的相談機関である「子ども家庭センター」が設置されること、関連して、産科・小児科医による、子育てへの不安等の相談に応じるオンライン相談事業が創設されること、病児保育の予約システムのICT化、本県の感染症医療、高度専門医療等の拠点として中核的な役割を担う「県立総合医療センター」の機能強化の推進、若手の薬剤師を確保するため、県内の急性期病院やへき地薬局に就職する薬学生に対する奨学金返還補助制度が創設されること、特定健診、がん検診、歯科健診の受診率向上に向け、これらの3健診を同時に実施する、新たな「健診モデル」を構築すること、

最後にこの2月からの県内の各圏域での地域医療構想調整会議の実施状況について、傾向として急性期病床の縮小に伴うダウンサイジング補助金の協議をするために開催されているものが主であり、建前としては地域医療構想に基づく急性期病床の再編の協議とされている。しかしながら、実情としては新型コロナウイルス感染症対応で疲弊した看護師の退職により急性期病床機能の維持ができず、止むを得ず国の支援策を活かしながら確保できる看護師に応じた病床の再編というもので、医療人材確保が厳しい現状が反映されている。

## 2 会長報告 綿貫会長

### 令和5年度学校保健会理事の推薦について

#### 令和4年度の理事役職

会長：相良 健

理事：藤原 真一、花宮 理比等  
2月定例理事会で就任中の現役員について各人から継続就任の内諾が得られたため、推薦の決議がされたことが報告された。

- 3 3月診療報酬請求書の移送日について 大藤理事  
国保・社保 3月10日(金) PM2:00まで
- 4 3月の定例理事会、例会の日程について 大藤理事  
定例理事会 3月8日(水) PM7:00～  
例 会 3月31日(金) PM7:00～  
場所 理事会・例会：医療支援センター
- 5 会員の動向について 大藤理事  
【入会】令和5年1月1日付  
氏名 弘中 秀治 (ひろなか ひではる)  
所属 全真会病院(前：山口大学附属病院)  
【異動】令和5年1月31日付  
氏名 河原 慎一郎 : B会員→C会員
- 6 1月分会計収支報告について 米城理事  
別紙分会計収支表のとおり報告された。

## 二 萩准看護学院

- 1 令和5年度生2次入学試験について 若松理事  
日 時 2月18日(土)  
受験者数：1名  
合格者数：1名
- 2 令和4年度卒業証書授与式の日程等について 若松理事  
日 時 3月3日(金) PM2:00  
場 所 萩地域医療連携支援センター  
昨年同様、新型コロナウイルス感染予防のため、来賓の制限など規模を縮小して開催すること

## ○2月定例理事会での情報提供に関する経過報告 山口県医師会 前川恭子常任理事

2月定例理事会において、むつみ地区のケアマネージャーから、介護保険認定審査会に係る主治医意見書の記載内容について、主治医へ要望があったことが報告されたが、その後、さらにケアマネージャーへの聞き取りをしたことについて、追加報告がされた。

ケアマネージャーからは介護認定審査会的主治医意見書の提出期限までに意見書の提出が間に合わず、審査会開催日が延期され、必要とされる介護サービスの速やかな変更が出来ず困っているとの意見があったこと。これに対して、理事からは主治医意見書の作成依頼があった際、記載に必要な状態把握をするために該当患者（介護サービス利用者）へ受診に来るように連絡しても、速やかに来院されない場合、提出の遅延になるとの要因が示された。

対応として、介護保険の認定更新時には、定期受診に関係なく、意見書を書く主治医に受診するよう該当患者（介護サービス利用者）にケアマネージャーから伝えてもらうよう、要請することとされた。

その他、主治医に対し、意見書に記載して欲しい内容については引き続き、ケアマネージャー間で協議し、取り纏めてもらうよう依頼することとされた。

## 一 医 師 会

### 1 会長報告 綿貫会長

#### ○郡市医師会長会議報告

2月16日(木) 於 山口県医師会

#### 【山口県からの説明】

##### 1) 令和5年度山口県当初予算（案）について

山口県健康福祉部からの説明では「新たな県づくりの本格始動」「新型コロナ対策の実施」「事業の選択による予算配分の重点化」の3つが山口県の予算編成に係る基本方針として示されたこと、健康福祉部関連事業としては、新型コロナ感染症への感染防止対策、結婚の希望を叶える気運の醸成、児童虐待及び子どもの貧困問題、医療・福祉のデジタル化の推進などが「山口未来維新プランに掲げ

る施策の推進」に関する事業として掲げられていること

新型コロナウイルス感染症感染防止対策の内訳として、1.検査体制の確保、2.医療提供体制の確保、3.保健所等の体制確保、4.社会福祉施設等における感染拡大防止等の支援、5.ワクチン接種体制の確保等の取組が含まれ、その他、物価高騰対策には医療機関や社会福祉施設等への負担軽減対策が含まれていること

やまぐち未来維新プラン関連重点事業として、産婦人科・小児科オンライン相談事業を創設し、子育て世代が使い慣れているSNS機能を活用する取組を進めること

県立総合医療センターの機能強化として、建築後40年が経過している建物の建替え及び医療機能強化に係る整備基本計画の策定等の予算が計上されていること、合わせて、地方独立行政法人山口県立病院機構特別会計も増額されること

地域医療を支える医師・歯科医師・薬剤師・看護職員等の養成・確保対策には若手医師確保総合対策事業、医師就業環境整備総合対策事業、医療人材バンク運営支援事業、医業承継支援事業が含まれること、医業承継支援事業は県医師会が企画した事業スキームに県が予算付けしたもので、医業譲渡を希望する診療所と譲受希望医師とのマッチング等の支援を推進していくこと

効率的で質の高い医療提供体制の確保対策には、がん検診受診促進強化対策事業、誘ってがん検診キャンペーン推進事業、がん医療体制整備事業、がん相談支援体制整備事業、がん治療に伴う外見の変化に対するケアである、アピアランスケア推進事業、がん治療の前に卵子や精子、受精卵、卵巣組織の凍結保存を行う治療である、妊孕性（にんようせい）温存治療費助成事業が含まれること

質疑応答では、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に位置付けられた後の新型コロナ患者の保健所の入院調整の仕組み、ワイシス（YSYS）の活用がどうなるのかの質問があり、県の石丸審議監からは3月中旬に示される国の指

針に沿って県としての対応をお示しするとの回答があったところ。関連して、3月例会において萩健康福祉センター（萩保健所）の古谷主幹に、その時点の国・県の新型コロナウイルス対応体制などの最新情報の提供を依頼し、了解を得られていること

## 2) その他

### 【議 題】

#### 1) 都道府県医師会長会議について

(第2回：11/15 第3回：1/17)

日医ニュース2022.12.5 No.1469号の「医療従事者の安全を確保するための対策について」以下のとおり、要点を絞り、報告がされた

全国で、医師に対する安全や生命が脅かされる重大事件が起きていることから、警察との関係強化に関して、日本医師会からの警察庁への対応要望に基づき、警察庁からは各都道府県警への対応周知がされ、日本医師会からも各都道府県医師会へ警察署との連携強化の要請がされたところ。これを受けて、本県でも県医師会から各郡市医師会に対し、会員と地元警察署との日頃からの連携に取り組むよう要請があり、萩市医師会では8月定例理事会において萩警察署の担当者から緊急時の対応の仕方などについて説明をして頂いた。今後とも萩警察署と連絡を密にし、日頃からの顔の見える関係づくりについて継続的に取り組むこととする。

関連して、山口県医師会から応召義務に関し、患者の迷惑行為がある場合などは診療を拒否できることを医療者ばかりでなく国民にも周知することを厚労省に求めるよう要望されたことに対して、医師への安全確保対策について医療者側からの訴えだけでは限界があるので、厚労省等の公的・第三者的な機関からの呼び掛けも必要になるとの要望に沿った回答がされた。

次に令和4年度第3回の都道府県医師会長会議のテーマである「学校保健を巡る諸問題について」に関して、学校での内科健診おける着衣又は脱衣による実施の仕方について討議され、山口県医師会から出された「学校医が健診を行いやすい体制整備を求める」との意見に対しては「正確な診断ができる環境で健診を行

えるよう各教育委員会に働き掛けをお願いしたい。」との回答がされた。これを受け、今後、まずは県医師会と県教育委員会とで懇談会の場を設け、根拠や基準などについて検討していくこととされた。

#### 2) 医療費助成事業に係る審査支払業務に関する要望について

医療費助成事業に係る保険請求の審査支払業務をオンライン請求とするように山口県市長会の井原会長及び山口県町村長会の米本会長へ要望し、国保連の財政に与える影響などの精査という条件つきながら、「速やかに取り組みたい」との回答があった。

#### 3) 郡市医師会からの意見・要望

防府市医師会からの新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが「5類」となることから診療体制がどうなるのかとの質問に対し、今後の国の指針を確認の上で診療体制等の変更について対応していくこととされた。

下関市医師会からコロナ感染者への「ラゲブリオ」投薬に関する支払基金のレセプト審査が中国5県の分は広島のAI審査に集約され、投与理由の詳細が必要との理由での返戻が増加したとの報告があったことに関連して、支払基金の審査集約化による問題点を精査するよう、県医師会から中四国連合会及び日本医師会へ要請することとされた。

#### 4) その他

河野理事からの施設でのクラスター発生時の萩保健所の対応に感謝をするとともに、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが「5類」となってもハーシス（HER-SYS）及びワイシス（YCISS）も利用が継続できることを望むとの意見に対して、会長からも県保健所等への利用の継続について要請していくことが必要との認識が示された。

## 2 4月診療報酬請求書の移送日について

大藤理事

国保・社保 4月10日(月) PM2:00まで

## 3 4月の定例理事会、例会の日程について

大藤理事

定例理事会 4月12日(水) PM7:00～

例 会 4月28日(金) PM7:00～

場所 理事会・例会：医療支援センター

- 4 令和5年度定時総会の日程について  
大藤理事  
令和5年6月24日(土) PM3:00～

- 5 職員の雇用継続について  
大藤理事  
医師会事務員：杉山  
学院事務員：山本  
雇用継続について承認された。

- 6 郡市医師会組織強化役職員連絡協議会報告  
森 副会長

日時 2月16日(木)  
場所 山口県医師会  
日本医師会の常任理事である江澤和彦先生が来県され「医師会組織強化に向けて」と題して、郡市医師会組織強化担当役職員連絡協議会が開催された。

郡市区等医師会、都道府県医師会、日本医師会の三層構造で医師会の会員数を測ることができる。日本医師会の組織率（医師の加入率）の推移としては2000年がピークで60.4%、2020年で51.2%と減少の一途で推移している。これ以上、減少が進めば医師会として政府等への保健医療に関する交渉力の低下に繋がり兼ねず、日本医師会としては非常に危機感を持っている。山口県における日本医師会への加入率等もあまり高くない状況であり、組織率の低下に歯止めをかけるため、日本医師会の取組について県医師会役員による講義を行い医学生に対し、加入への理解を促している。加入促進の一環として卒後5年目までの会費減免を打ち出したが、6年目からの加入継続がどうなるか、郡市医師会への退会・入会の煩雑な手続きの簡素化、日本医師会医師賠償責任保険の効用、医師年金など会員加入促進に向けて課題を整理し、利点を示していくことが必要との認識が示された。

- 7 2月分会計収支の承認について  
米城理事  
会計収支表に沿って説明され承認された。

## 二 萩准看護学院

- 1 令和5年度入学式の日程について  
若松理事  
日時 4月4日(火) 於 医療支援センター  
昨年同様、新型コロナウイルス感染予防のため、来賓の制限など規模を縮小して開催すること

- 2 2月分会計収支の承認について  
米城理事  
会計収支表に沿って説明され承認された。

### 【追加議題】 萩市教育委員会が行う学校における健康診断に関する児童・保護者へのアンケート調査について 藤原理事

学校保健会の養護教諭から健診時の脱衣・着衣の取扱いの見直しについて教育委員会へ要望があり、教育委員会で検討するに当たって、その参考として児童・保護者へのアンケートを実施したいとの教育委員会からの申出があり、アンケート項目について理事会で内容確認して頂くよう要請がありました。

なお、アンケートの実施時期は、12月以降となる見込みで、実施対象となる学校も全学校とするか一部とするかは検討中であること  
<理事からの意見・気づき>

- 調査内容として、実施方法に「③希望選択」あるが、回答は③が最も多くなるのではないか。
- 希望選択性となると健診のやり方が難しくなるのではないか。
- メリット、デメリットの記載があるが、子どもが理解できているのか、親の意見で決まるのではないか。
- 保護者に健診の意義を理解してもらうことが必要であり、これは教育委員会が行うべきことである。
- 実際に診察ができるかどうかが大切で、健診時に部屋の中にクラスの児童が一堂に会しての実施ではなく、個別で実施できるように個室の中での物理的な区分等の環境づくりが出来るようにしてからの着衣と脱衣の協議をするべきではないか。まずは、健診時の個室実施をすることを提案してみてどうか。
- まずは教育委員会との意見交換会を実施することからはじめ、5年度の健診終了後に改めて方策を検討した方が良いのではないか。

# 令和4年度 萩准看護学院卒業式

令和5年3月3日(金)



## 送 辞 在校生代表 福田 千晴

厳しかった寒さも少しずつ和らぎ春の訪れを感じる今日よき日に、萩准看護学院を卒業される第68回生の16名の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。



この日を迎え皆様は今、2年間の学生生活の様々な思い出を振り返っていらっしゃると思います。皆様にとって卒業までの日々は勉強と仕事の両立で、慌ただしくもあり決して平坦な道のりではなかったのではないのでしょうか。

皆様との出会いは、一年前に不安と緊張を胸に抱き、迎えた入学式でした。黒板にお祝いのメッセージや飾りつけをしてくださり、私達の緊張や不安が希望と楽しみに変わったことを今でも鮮明に覚えています。

また、戴灯式では、皆様から実習の最中に

も関わらず、時間を割いて教室の黒板に心温まるメッセージを沢山頂きました。戴灯式後には私達のために交流会を開いてくださり、伝言ゲームなど様々な楽しい企画を用意していただき、大変楽しい時間となりました。

臨地実習では、新型コロナウイルス感染症の影響により、学内での実習を余儀なくされた時、自分たちにできることを懸命に笑顔で取り組まれており、そのような先輩方のお姿は、私達の模範でもありました。

私達も1月から医療現場での基礎看護学実





習が始まりました。実習中、看護師さんが、黙って患者さんの背中をさすり、しばらくして声をかけられると、患者さんが少し笑顔で頷かれた場面

があり、印象に残っています。コミュニケーションは話しかけることだけでなく、黙って肩に手を置くだけでも、触れるだけでも、安心へと繋がっていくことを知りました。まだまだ知識や技術が未熟でこれから色々なことを学んでいく必要を感じる中、沢山の学びを積み、また大変な実習記録も乗り越えて来られた皆様の偉大さを、改めて感じました。

ここに心に残る詩をご紹介しますと思います。

この詩を書かれた方は、星野富弘さんという方で、体育教師となった2か月後に、頸椎損傷にて首から下が麻痺し、闘病生活を余儀なくされた方です。絶望の中、看護学生のアイデアでペンを口にくわえて書いた一文字をきっかけに、絶望の淵から生きる道を見出されていきました。その方の詩に「この道は茨の道 しかし茨にもほのかにかおる花が咲く あの花が好きだから この道をゆこう」とあります。

さて、皆様はこれから進学される方、医療機関へ就職される方、それぞれの道を歩んでいかれますが、その道はこれまで以上に険しく過酷になるかもしれません。悩み立ち止ま



り、くじけそうになることがあるかもしれません。そのような時にこそ、この詩を思い出してください。そして、この学院で学んだ知識や経験が、患者さんにとって安心できる手の温もりとなり、これからの皆様の看護師としての道しるべとなっていくことと信じております。この学院で培った学びを胸に自分自身を信じ、前進して行って下さい。

私達も皆様が築かれた素晴らしい歴史と、本学院の理念である「愛」「責任」「信頼」を受け継ぎ、皆様に誇りと思っていただける学院となるよう、より一層努力致します。

最後に、皆様方のご健康と、さらなるご発展を心よりお祈り申し上げ、送辞とさせていただきます。



## 答 辞

卒業生代表 木曾 奈緒子



厳しい寒さも和らぎ、桜のつぼみも膨らみはじめ、春の訪れを感じる今日の良き日、第68回卒業生16名のためにこのような卒業式を挙げて頂き、誠にありがとうございます。

また、学院長先生並びに在校生よりご祝辞や激励のお言葉を頂き、卒業生一同心より感謝申し上げます。

2年前、不安と希望を胸に入学しました。仕事と勉強に追われる日々には戸惑いな





がらも、年齢も背景も様々な仲間たちと共に励まし合いながら、学校生活を送ってきました。

実習では新型コロナウイルス感染症のため、臨地実習の半分以上が学内実習となりました。先生方は、学内でも充実した実習ができるように、様々なアイデアで症状別、年齢別のプログラムを作ってくださいました。

学内実習では大腿骨頸部骨折の患者さんの体位変換をどうやったら脱臼しないようにできるか、酸素療法中の患者さんの生活はどのようにすれば安全・安楽に出来るかなど、生徒同士、交代で患者役を体験しながら、意見を出し合うことが出来ました。これらの体験によって疾病の理解が深まり、チームで協力することの大切さを学びました。この様に私たちのために学習内容を工夫し、ご尽力下さった先生方のご苦労は、如何ばかりであったかと思われます。

病棟実習では、患者さんの疾病を把握することは当然のことながら、その方の生活背景や、人生観に触れることでニーズを把握し、個別性のある看護を提供していくことの難しさを痛感しました。また患者さんとの関わりを通して、まだまだ未熟な部分に気づかされたことを思い出します。コロナ禍にもかかわらず実習を受け入れてくださった病院、施設に感謝し、実習指導者や先生からの助言、励ましを忘れず、これからも学び続け

ていきたいと思ひます。

講義では、色々な基礎知識を学びました。また「人として何を行うべきか」「自分のしてほしいように看護する」「自分のしてほしいことはしない」ということを念頭に置くことで自然と患者さん中心の看護になるのだと学びました。

在校生の皆さん、基礎看護実習では、学内実習も多く、不安になることもあるかもしれませんが、生徒のために、一生懸命指導して下さる先生方がいらっしゃいます。学内でも、自分の気持ち次第でしっかり学べます。仲間と励まし合い頑張ってください。

本日をもって私たちは本学院を巣立つこととなりました。あっという間の濃縮された2年間でした。仲間と励ましあい、相談し乗り越えた2年間でした。失敗したとき、何も言わなくても手を差し伸べ寄り添ってくれる仲間や先生、笑顔で対応して下さるスタッフの方が支えてくださったからこそ、今の私達があります。本当にありがとうございました。

これからも本学院の卒業生としての自覚と誇りを持ち初心を忘れることなく研鑽を積み、地域医療に貢献していきたいと思ひます。

最後に本学院の益々のご発展と諸先生方をはじめ、私達を支えてくださった全ての方のご健勝とご多幸を心より祈念申し上げ、答辞と致します。



# 還暦を迎えて

なかむらレディースクリニック 中村 正也

この度は、萩市医師会より、還暦のお祝いを頂き有難うございました。心より御礼申し上げます。

平成11年、36歳の時に、萩に帰郷・事業継承いたしました。中学からずっと九州に居ましたので、25年ぶりの帰郷でした。最初の数年は自分の理想とは程遠く、苦勞の連続で、家内も3日に1回の当直で、幼子2人を抱え大変でした。経営が軌道に乗った後も、従業員確保に頭を抱えながら、何とか現在に至ります。その間改築も行い、現在はスタッフに恵まれ少しは安心して診療出来ています。

一年365日拘束の生活にも慣れましたが、自由の無い身はやはり窮屈で、最近体力の低下を自覚します。留まることのない少子化も深刻で、何時まで一診療所として継続できるかは不透明ではありますが、数少ない産婦人科診療所として、今しばらく頑張る所存です。これからも、医師会諸先生方のご理解・ご支援を宜しくお願い致します。



## あひる会ゴルフコンペ

開催日/令和5年2月23日(木・祝) 場所/ブルーラインカントリー倶楽部

優勝 柳井 章孝

OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
46	48	94	25.0	69.0

準優勝	川上 雅弘	5位	坂倉 孝典
3位	横尾 吏	6位	中嶋 薫
4位	岡野 雅治	7位	井上 信義



## 私の大切な本

山本 貞壽

「サンサーラ」地球・宇宙・人間ⅠⅡⅢ  
松井孝典 徳間書店 1990年

何とも崇高・偉大で凄まじい書籍、ほとんどが頁を開ける毎に息をのむカラー写真なのである。サブタイトルは

- 〔Ⅰ〕我々はどこへ行くのか？
- 〔Ⅱ〕我々はどこから来たか？
- 〔Ⅲ〕我々とは何か？

宇宙船地球号。その中で、わたしたち人類は生と死を繰り返してきた。

生存の循環 輪廻を、  
サンスクリット語で  
サンサーラという。

帯にはこう記してある。

人類の過去・現在・未来を画期的なスケ

ールと独創的な視点で描くサイエンス・パノラマ。

生きて80年の人生でも200億光年彼方の光を見ることができる。

私たちの一生は、永遠と一瞬が交差する場所だ！

哲学者の梅原猛氏はこう推薦している。

……国際的な地球物理学者である松井孝典氏は神学的問題に挑み続けている人である。何とも大胆不敵な試みだが、科学の側から哲学の領域に斬り込もうとする彼の壮図は、哲学の側に立つ私にとって大いなる刺激であり、私は心から彼に拍手を送りたい。

初版3巻で4,900円、4,500円、4,500円 3.8kgの重さ。何万冊かの本で家が沈むと家内が云うのだが（多分本当）、私が倒れた時に全て廃棄や贈呈で可。この3巻だけは価値が知りたいし、残してほしい。見ることをご希望の方は手袋をご持参下さい。（写真は1巻表紙）



# 編集後記

## 新時代への歩み2点

①思いやりの時期に入ります。

3月13日以降、マスクの着用は個人の判断に委ねることになり、「お互いを思いやる」局面に入ります。

新型コロナウイルス感染症の蔓延を機に、感染の恐怖により生活様式が全く変わってしまった人（あらゆる世代で！）をみます。考え方の見直し時期なので、慣れていく必要もあるのですが、当面は、推奨されている

「医療機関・高齢者施設等への受診時訪問時」は、マスクを着用して欲しいと思います。

②マスク着用は効果があります。

私は実感しました。

長時間飛沫を浴び続ける診察が何度もありましたが、一度も新型コロナウイルスに感染することはありませんでした。場面によるマスク着用の使い分けは、力を発揮するでしょう。 (K.K.)

## 小児感染症情報

1/30(月)～2/26(日)

疾患名	1/30～2/5	2/6～2/12	2/13～2/19	2/20～2/26
新型コロナ感染症	86	108	57	35
インフルエンザ (A・B)	3			
RSウイルス感染症				
咽頭結膜熱 (アデノウイルス感染症含む)				
溶連菌感染症			1	
感染性胃腸炎 (ロタ・アデノ・ノロ・その他)	6	12	15	18
水痘				
手足口病				
伝染性紅斑				
突発性発しん				
ヘルパンギーナ				
流行性耳下腺炎				
帯状疱疹				
ヒトメタニューモウイルス				
マイコプラズマ感染症				
ヘルペス歯肉口内炎				

報告者：いわたにこどもクリニック 院長 岩谷 一

## 救急月報 (令和5年2月分)

萩市消防本部

区分	救急事故種別										合計		
	火災	自然災害	水難事故	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病		その他	
本月分	出動件数	0	0	0	3	3	0	40	0	3	136	60	245
	搬送人員	0	0	0	3	3	0	41	0	1	123	60	231

## 萩市医師会報 No.600

2023年3月24日発行

編集 広報委員会  
 発行人 萩市医師会  
 印刷所 (有)マシヤマ印刷